

# 獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital News —



令和3年（2021年）

冬号

脳卒中の適切な予防と治療、リハビリテーションを喚起する啓発運動の一環として、10月の「脳卒中月間」及び10月29日の「世界脳卒中デー」に合わせて、脳卒中のシンボルカラーである“インディゴブルー”で病院の正面をライトアップしました。



第48号

## 「脳卒中」という病気をご存知ですか？ 獨協医科大学病院の「脳卒中」医療を紹介します

毎年10月は「脳卒中月間」、10月29日は「世界脳卒中デー」でした。皆さん、「脳卒中」という病気をご存知でしょうか？

「脳卒中」は総称で、脳や頸の血管が詰まる「脳梗塞」、脳の中の細い血管が切れて脳の中に出血する「脳出血」、主に脳動脈瘤が破裂しておこる「くも膜下出血」に分類されます。がん、心臓病、老衰に次いで私たちが死亡する原因として4番目に多いのが脳卒中です。加えて脳卒中は言葉や手足の運動障害などの後遺症を残すことも多く、介護を要する原因の約2割を占め、さらに重い障害のために身の回りのほぼ全てに介助が必要となる原因の第1位となっています。

このため脳卒中は予防が一番大切です。たばこを吸う、運動習慣がない、血圧が高い、血糖が高い、コレステロールが高い、心房細動という不整脈がある、などが脳卒中を起こす原因として知られています。次に大切なのは一刻も早く専門的な治療を開始することです。命を救う、後遺症を軽くするため「脳卒中？」と思ったら迷わず救急車を呼んでください。

さて、獨協医科大学病院は1分1秒でも早く専門的な治療を提供するため2018年4月に「脳卒中センター」を設置しました。そして2020年5月1日、「脳卒中患者の救命、転帰改善および再発予防のために、24時間体制で迅速かつ適切な初期治療と急性期治療を提供する」ことを掲げ、集中的な専門治療を行う脳卒中集中治療室の病棟「SCU」を開棟しました。教育医療棟の10階にある病棟でベッド数は12床となっています。大学病院であり、どの病棟、外来でも専門的な手厚い看護を提供する体制となっていますが、SCUは集中治療室（ICU）と同じように一般の病棟に比べて一人の看護師が受け持つ患者さんの数が少ないため、より一層手厚い看護体制になっています。また脳卒中は後遺症を軽減するために病初期からリハビリテーション治療が必要となります。SCUは病棟内にリハビリテーション室がありより高い治療効果が得られます。医師の体制も脳卒中専門医を中心としたチーム（センター医師）が組み立てられており、24時間365日最適な治療が行われています。このようにSCUは脳卒中を起こされた患者さんに効果的かつ集中的な治療を提供する病棟となっています。

もちろん救急車で搬送されていらっしゃる患者さん、他の病棟の患者さんが脳卒中を起こされた疑いがある時は、センター医師が速やかな対応を行なっています。また他の病院の患者さんが脳卒中を起こされた時、センター医師が画像遠隔診断システムを用いて初期治療のアドバイスをを行い、より専門的な治療を必要とする場合はSCU病棟に搬送いただくシステムも構築中です。

最後になりますが、獨協医科大学病院には「包括的相談窓口」があります。2019年末に施行された「脳卒中・循環器病対策基本法」に基づき、脳卒中、心臓病、血管病の患者さんやご家族が抱える社会参加や就労、経済的な問題をまとめて相談できる窓口です。医療ソーシャルワーカーが中心となり、内容により医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション専門職が対応しています。無料で相談できますので是非ご利用いただければと思います。



脳卒中センター  
教授・センター長  
竹川 英宏

## 認定看護師紹介

### 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

教育医療棟10階SCU 石坂 美和  
野本 直樹



#### 1. 認定看護師とは

日本看護協会により認定された資格で2020年現在21分野21,847名の認定看護師が全国で活躍しています。認定看護師は個人、家族及び集団に対して、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践することや看護実践を通して看護職への指導、看護職等から相談を受けたりする役割があります。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は全国に782名、栃木県には11名が各施設で活躍しています。

#### 2. 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の役割と活動内容

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は脳卒中の患者さんの発症直後から自宅に帰られるまで一貫性のある看護を行っています。

##### 1) 脳卒中患者の重症化を予防するための細かな観察と援助

病状が悪い患者さんの変化を予測し、悪化を予防するための援助を行います。

##### 2) 寝たきりにならないように入院後早期からのリハビリテーション

病状に合わせたリハビリテーションを早期から安全に行い、後遺症の予防に努めます。

##### 3) 自宅に帰るまでの機能回復支援

患者さんに合わせた機能の改善を目指し、アドバイスをします。

##### 4) 脳卒中の再発を予防するための健康管理方法についての指導・相談

患者さん、ご家族に対して再発を予防するための方法を説明します。

##### 5) 脳卒中に関してスタッフへの指導・相談

スタッフへ脳卒中に関する知識や技術の指導を行い、看護の質の向上に努めます。

#### 3. 今後の活動

- ・ 安静臥床による弊害・合併症を出来る限り予防し、患者さんが日常の生活に戻れるよう関わりを強化して対応していきます。
- ・ 脳卒中は再発する病気です。生活習慣の改善は一人では難しいため、ご家族を含めて一緒に再発を予防することが重要です。当院では脳卒中・循環器広域相談窓口を2020年12月に開設しています。入院中だけでなく、退院後も患者さんやご家族の不安や疑問にお答えし、安心して生活できるよう支援していきたいと考えています。

**～インフルエンザと新型コロナウイルス感染症及び風邪について～**

新型コロナウイルス感染症に加え  
風邪・インフルエンザが流行する時期になりました

【インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症・風邪の特徴】

	かぜ	インフルエンザ	新型コロナウイルス
潜伏期間	2～4日間	2～5日間	1～14日間
感染経路	飛沫・接触	飛沫・接触	飛沫・接触・空気
主な症状	発熱 咳・咽頭痛・ 鼻水	高熱 関節痛・筋肉痛・ 咳・咽頭痛・鼻水	発熱 筋肉痛・倦怠感・咳・ 痰・味覚嗅覚障害
検査方法	なし	抗原検査	PCR 検査

上記の症状がある場合は、早期から隔離・咳エチケット(マスク着用)・手指衛生で初期対応し医療機関の受診をお願いします

**ワクチン接種も計画的に実施することをお勧めします**

**医療機関を受診する場合の注意点**

1. 医療機関に事前に電話で症状を伝え、受診のタイミングなど相談する
2. 医療機関の指示の日時・受診方法を守る

発熱の有無に関わらず、有症状時は学校・職場を休み、多くの人が集まる場所への外出を控え、症状が回復してからの復帰をお願いします

**ヘルプマークをご存知ですか？**

ヘルプマークは、“見えない障がい”のある人(外見からは分からなくても援助や思いやりが必要な人)がつける目印です。

大学病院を含む本学の職員でもこのヘルプマークをつけている職員がいます。  
話しかけても、うまく聞き取れなかったり、コミュニケーションが難しかったり、あるいは、迅速な動きができなかったりする場合もあるかと思いますが、なにとぞご理解とご配慮をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

ヘルプマーク(見本)  
実寸は縦=85mm：横=53mm

**アレルギー疾患医療拠点病院**

当院は栃木県から『アレルギー疾患医療拠点病院』の指定を受け、アレルギー疾患に対する診療連携体制の構築や人材育成等、地域の医療機関や患者会等とも連携しながらより良いアレルギー治療の提供体制を確立するとともに、アレルギー疾患に関する情報の発信を行っています。また、メールでのご相談もお受けしております。詳細については獨協医科大学病院アレルギーセンターのホームページをご覧ください。

【掲載場所】  
ホーム>診療部門のご案内>中央部門>アレルギーセンター  
[https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/department/consultation\\_organization/129](https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/department/consultation_organization/129)

**看護職募集**

当院では、看護師 助産師 を募集しております。  
就職説明会(WEB)、採用試験等については、ホームページ看護職募集サイトをご覧ください。

〒321-0293  
栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880  
獨協医科大学病院 看護部  
電話 0282-87-2395  
E-mail kangobu-aaa@dokkyomed.ac.jp  
(受付時間：月～金 9：00～17：00) \*休日除く

**獨協医科大学病院だより第48号**

〒321-0293  
栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地  
TEL 0282-86-1111 (代表) FAX 0282-86-4775

当広報誌は当院ホームページよりご覧いただけます。  
<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

発行年月日 / 令和3年12月  
発行・編集 / 獨協医科大学病院  
印刷 / 株松井ピ・テ・オ・印刷